



公益財団法人

大阪産業局

O.B.D.A. OSAKA BUSINESS DEVELOPMENT AGENCY

ベトナム情報レポート（2023年2月28日）

（公財）大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク
株式会社NCネットワーク

【2022年ベトナム経済指標】

2022年が終わりに、ベトナム当局から各経済指標の暫定値が発表されました。

国内総生産（GDP）の成長率は、当初の予想であった7%前後を上回り、8.02%となりました。農林水産、工業・建設、サービスの3部門に分けてみると、農林水産は第1四半期(2.67%)から第4四半期(3.85%)まで堅調に微増。工業・建設およびサービスは第1四半期(工業・建設6.56%、サービス4.52%)、第2四半期(8.70%、8.92%)、第3四半期(12.19%、19.34%)と急成長をみせましたが、第4四半期(4.22%、8.12%)で落ち込みました。この第3四半期までの好調に支えられ、2022年の成長率は2011年以降の最高値を記録しました。一人当たりGDPは4,110米ドルで、2021年から393米ドルの増加となりました。

2022年の鉱工業生産指数（IIP）の伸び率は7.8%で、そのうち成長が顕著だったのは飲料生産(32.3%)、薬品・化学品生産(19.2%)、未分類の機械・設備生産(19.1%)、木材加工・木製品生産(17.2%)などです。逆にマイナス成長となったのは、金属生産(△2.5%)、ゴム・プラスチック製品(△6.6%)などでした。

企業活動をみると、2022年の新規設立企業数は約21万社で前年比30.3%増、解散企業数は約14万社で同19.5%増でした。2022年第3四半期と比べた第4四半期の事業活動については、企業の32.6%が「良くなった」、33.7%が「落ち着いている」、33.7%が「厳しい」と回答。2023年第1四半期の見通しについては、企業の31.5%が「良くなる」、37.3%が「落ち着く」、31.2%が「厳しくなる」と回答しました。

2022年1月1日～12月20日の外国直接投資（FDI）は、新規登録・増資減資・株式購入を合わせると277億米ドル、前年比11%減となりました。産業別では製造・加工がトップの168億米ドル(60.6%)、続いて不動産が44.5億米ドル(16.1%)、電力生産・供給が22.6億米ドル(12.3%)です。国別では1位シンガポール(投資案件280件、登録資本総額64.6億米ドル)、2位韓国(416件、48.8億米ドル)、3位日本(203件、47.8億米ドル)でした。輸出入統計をみると、2022年の輸出総額は3,718億米ドルで前年比10.6%増、品目は工業加工品が89%、最大の輸出先は米国(1,091億米ドル)でした。輸入総額は3,607億米ドルで前年比8.4%増、品目は生産材料が93.5%、最大の輸入先は中国(1,193億米ドル)で、112億米ドルの貿易黒字となりました。

消費者物価指数（CPI）は年間平均で3.15%の上昇となり、国会が設定した目標値4%以内を達成しました。2022年のCPI上昇の要因は、ガソリン、ガス、食品、住宅・建設資材、教育（授業料値上げの影響）の各価格の上昇です。燃料価格の上昇やコロナ後の旅行需要の急増により、交通機関の運賃も上がりました。